



プランティングフラワー開発者  
**長瀬教子**



・高齢者アートアドバイザー  
・アクティビティディレクター  
・第6回週末起業家大賞受賞

新潟県出身。中央大学卒業。

プロの漫画家を15年間、その後老人介護施設で看護職として15年間介護の経験を積む。老人介護施設在職中にシニアのためにエコなフラワー・アートであるプランティングフラワーを開発。また、2006年にはネイルのような装飾品『鉱石つき貼る装飾品』を開発。他にも杖のホルダー『ツエラック』等、さまざまなものを開発、販売も手掛ける。特に、オリジナル高齢者アート(『ウンドウアート』、『ナガセ式ロールピクチャー』等)を数多く開発し、プランティングフラワーとともに多くの介護施設の利用者様方に喜ばれている。さらに、介護の本も執筆、出版。著書の挿絵や漫画も描く。2006年からは約10年間、主に介護施設職員たちにプランティングフラワーを教え、介護施設等にプランティングフラワーを広める。その間にNHKテレビ出演(2回)や日本経済新聞掲載をはじめ、メディアにも多数取り上げられる。プランティングフラワーの生徒様は日本だけでなく、韓国にも。



# 看護師だからできること

プランティングフラワーって「存知ないですよね。  
私のオリジナル手芸なんです。」

不要になったダンボールを使い、身近にあるものばかりを使って作る、花の手芸です。材料は主にラッピングペーパー、毛糸、包装紙、和紙などです。経費が余りかかるないので、施設などの手芸に向いています。

今までにない手芸だと自負しています。基本は、ダンボールの厚みを利用する、その表面にきれいな紙をはり、そこにラッピングペーパーなどで作った花びらを差し込んで花のアートを作ります。

材料の殆どは、身近にあるもの、不用品です。このレターラックの場合、ダンボール、ビデオカセットのケース2個、和紙、ラッピングペーパー、ビーズ、小枝などで作りました。不用品で作ったとは思えない美しさ、でしょ?。



「この手芸を考えたいきさつを書きたいと思います。」

当時、私は「み問題に興味を持つていて、「み」を何とか減らしたい!」と、思っていました。でも、古紙が評価されない時代で、ダンボールは焼却するしかない状況でした。燃やせば二酸化炭素が出て、地球温暖化を加速させるし、何かに利用できないかと、思い巡らせていました。

職場では、お年寄りに手芸を楽しんでもらいたいと、職員は頭を悩ませていました。機能が低下してもでき、楽しくて、それなりのできばえのもの。そんなものがそこそこあるものではありません。

職場で生かす方法。いろいろ試行錯誤していくうちにたどり着いたのが、ダンボールの厚みを利用して、その表面に半立体の花のアートを作ることでした。お年寄りにもできる簡単なものを、四季折々に提供することができるなら、喜んでもらえたんだな、というのが出発点でした。

プランティングフラワー開発者  
**長瀬教子**

2006年10月28日・29日 ブログ転載

## 【著書】

